

第 78 回日本癌学会学術総会

ランチオンセミナー32

座長

国立がん研究センター
先端医療開発センター
研究企画推進部門長

古賀 宣勝 先生

演者

国立がん研究センター研究所
希少がん研究分野

分野長 近藤 格 先生

Current status and prospects of patient-derived
cancer model for rare cancer research

患者由来がんモデルの開発と応用

～希少がんの研究者からみた現状と展望～

2019年9月28日(土)

11:45 ~ 12:35

第 12 会場 (国立京都国際会館 2階 Room12)

Luncheon Seminar

共催: 第 78 回日本癌学会学術総会
日本チャールス・リバー(株)

ご講演要旨

患者由来がんモデルは、がん研究において黎明期からさまざまな用途で使われてきた。新しい治療法の開発がかつてない勢いで進む今日では、抗がん剤の効果を予測する方法が必要とされており、そのためのツールとして患者由来がんモデルが期待されている。また、ゲノム解析で同定される遺伝子変異の機能的な意義を調べるためにも、モデル系はますます必要とされている。このような背景をもとに、さまざまな悪性腫瘍の腫瘍組織からゼノグラフト、細胞株、オルガノイドを樹立し、バンク化し、共有する、という大型研究が数年前から欧米で行われている。しかし、患者由来がんモデルの基本的な技術は過去数十年間ほとんど変わっておらず、しかも臨床的な有用性は未だ確立されていない。基礎研究の視点からは、現行のモデル系が臨床的な腫瘍の何をどのように反映しているのか、解釈が難しい。一方で、肉腫など希少がんにおいて患者由来がんモデルは決定的に不足しており、もっと樹立される必要がある。国立がん研究センター・希少がん研究分野では、主に肉腫症例の手術検体を用いてゼノグラフトや細胞株を樹立し、研究者や企業に提供している。本講演では、患者由来がんモデルの現状と課題、および患者由来「希少がん」モデルの展望についてお話しする。

先生のご略歴

- 1992年 岡山大学医学部卒 大学院入学(細胞生物学部門)
- 1996年 博士号取得 岡山大学医学部・助手
- 1998年 ミシガン大学医学部小児科(Hematology/Oncology)・博士研究員
- 2000年 岡山大学医学部・助手
- 2001年 (旧)国立がんセンター 生物学部・室長
- 2005年 同プロテオーム・バイオインフォマティクス・プロジェクト・リーダー
- 2010年 独立行政法人 国立がん研究センター 創薬プロテオミクス研究分野・分野長
- 2014年 同 希少がん研究分野・分野長

✓ランチョンセミナーは整理券制になります。

Participants for this Luncheon Seminar are requested to pick up a numbered ticket beforehand.

✓当日分整理券配布場所:ランチョンセミナー整理券配布デスク

(国立京都国際会館本館 1階 メインホール前ホワイエ)

Location for distribution of the on-site tickets: at the Luncheon Seminar Reception Desk
(KYOTO INTERNATIONAL CONFERENCE CENTER 1F Main Foyer)

✓当日分整理券配布日時:2019年9月28日(土)7:30~11:15(無くなり次第終了となります)。

Date of time of distribution for the on-site tickets: Saturday, Sep.28, 2019 7:30-11:15
(Until the supply runs out)

【注意】整理券は、セミナー開始5分後に無効となります。

【Note】Tickets become invalid 5 minutes after the start of the seminar.

ランチョンセミナーに関するお問い合わせ先 / Contact:

日本チャールス・リバー(株)営業部、マーケティングビジネスデベロップメント部

Charles River Laboratories Japan, Inc. Sales Dept, Marketing& Business Development

Tel: 045-474-9340, Email: web_order@crl.com

Luncheon Seminar

共催: 第78回日本癌学会学術総会
日本チャールス・リバー(株)